

定時制・単位制
半数以上が外国人生徒等
外部団体との連携によるキャリア支援
大学との連携による日本語講座の実施

東京都立 飛鳥高等学校

全校生徒数の 62%を外国人生徒等が占めており、困ったときは生徒らが助け合いながら生活しています。外部機関とも積極的に連携して多文化共生プログラムやキャリア教育等の実践を行っています。社会との関わりをもつことが学校生活の充実と社会参加の後押しになっています。



学校名	東京都立飛鳥高等学校	所在地	東京都北区
課程・制度・学科	定時制（3修制あり）・単位制・普通科		
特別入学枠	無	措置	—
全校生徒数（人）	78	外国籍生徒数（人）	43
特別枠入学者数（人）	—	日本語指導が必要な生徒数（人）	13

3年で卒業できる3修制もある定時制高校です。全校生徒に占める外国人生徒等の割合は62%ですが、この5年で外国籍の両親を持つ生徒の入学が増えてきました。

生徒の実態・とりまく状況

外国人生徒等の70%程度が中国、ネパールにルーツを持つ生徒です。

外国人生徒等の日本語力には幅があります。日本語能力試験（JLPT）で日本語の力を把握していますが、ほとんどがN4、N3レベル相当で、N5、N2レベルに相当する生徒も若干います。N5レベル相当の生徒はサポートを受けないと授業についていくことが難しい状況ですが、N2レベル相当の生徒は、自律的に日本語を学習することも可能で、日本語の力が急速に身についています。

受け入れ体制

日本語の授業担当者：日本語指導ができる教員が日本語の授業を担当しています。

高大連携で明海大学の大学生が日本語講座を担当しています。

言語環境：学校生活の様々な場面で難しい漢字を使わないようにしています。また、配布するプリントにはルビを振っています。

校内研修：今年度の教員研修では、外国人生徒等とどのように話すと良いかを取り上げて、研修を行いました。生徒に話す時は文を短くすること、やさしい言葉で伝えること、ゆっくり喋ることなど意識しています。

学習指導・支援の工夫と特徴

日本語指導

- ・学校設定科目「日本語」（2単位）と日本語講座を通し、基本的な日本語力を身に着けることを目指しています。日本語の力を日本語能力試験（JLPT）で把握し、指導しています。
- ・「日本語」（では、「話す」「聞く」力の育成をねらいに、日本語能力試験の N5、N4 レベルの 1 年生を対象として授業を行っています。
- ・日本語講座は 1 年生を対象に年 10 回、「読み」「書き」を重視して実施しています。

キャリア支援

生徒の進路：毎年、進学か就職・その他と進路先の割合は異なります。

大学や専門学校への進学は、ほとんどが学校推薦型選抜（指定校制）を利用しています。一般入試の場合、日本語での読み書きの力が課題となっています。

「みんなが清掃の仕事をしているから、自分も！」というように、同じコミュニティに属す人たちと同じようなキャリアを選択していく生徒が多くいます。

就業支援：ハローワークに相談に行くなどして、高卒が対象となる就業先を探しています。日本語の力が求められ、受入れ企業を見つけることが困難な状況があります。

特色ある取り組み「外部団体との連携による多文化共生プログラム」

外部団体との連携：東京都が実施している高校生の社会的職業的自立支援プログラムを通して、多くの外部機関と連携してキャリア教育を実践しています。例えば、認定 NPO 法人カタリバと連携し多文化共生プログラムを各学年で実施しています。例えば、2021 年、1 年生は、粘土でアート作品を作成しそのプレゼンテーションを多様な言語媒体で行う活動をしました。

その活動の一環として「先輩トーク」というロールモデルになる人と出会い交流する活動や、在留資格について学ぶ機会を設け、キャリア支援にもむすびつけています。



学外との連携

高大連携事業：明海大学と連携し、大学生による日本語講座を実施しています。

認定 NPO 法人カタリバ：「特色ある取り組み」で詳しく紹介。

今後の取り組み

日本語力の向上：日本での活躍の場を広げるため、日本語の指導・支援を充実させます。

ロールモデルとの出会いづくり：生徒と同じように移動経験が有り、日本で活躍しているロールモデルに出会う場を、さらに増やしていく必要があると考えています。

学校と社会の連携の推進：

教員のみでできることには限界があります。学校での安定的な生活と学習を保障するという点からも、社会に向けた視野を広げるとい点からも、外部団体との連携により、生徒が社会活動へ参加経験を積めるようにしたいと思います。

ヒアリング実施日：2021年9月9日